

(1) 次の A ~ D の人物と関連する著書や業績の組み合わせとして、最も適切であるものをア～オから 1 つ選びなさい。

A ペスタロッチ B ローレンツ C ウォッシュバーン D カント

A	B	C	D
ア 『白鳥の歌』	『インプリンティング』	『ヴィトネカ・プラン』	『教育学講義』
イ 『一般教育学』	『成熟優位説』	『イエナ・プラン』	『教育学講義』
ウ 『白鳥の歌』	『インプリンティング』	『ドルトン・プラン』	『教育の過程』
エ 『白鳥の歌』	『成熟優位説』	『イエナ・プラン』	『教育論』
オ 『一般教育学』	『インプリンティング』	『ヴィトネカ・プラン』	『教育の過程』

(2) 次の教育者・思想家の名前とその人物の著作の組み合わせとして、誤っているものはどれか、ア～オから 1 つ選びなさい。

ア エリクソン	『幼少期と社会』
イ ブルーム	『教育のタキソミー』
ウ ブルナー	『教育の過程』
エ キルパトリック	『一般教育学』
オ モンテッソリー	『子どもの発見』

(3) 次の文章は、発達心理学について説明したものである。この理論を提唱した人物は誰か、ア～オから 1 つ選びなさい。

パーソナリティを構造的、力動的にとらえ、精神分析学の立場から理論を提唱した。人間の人格は、イド、自我、そして超自我の 3 部位からなり、特に、無意識化にある性衝動としてのイドが重要な役割を果たしているとした。

ア ヴィゴッキー イ フロイト ウ ヤコブソン
エ スキナー オ ウェルトハイマー

(4) 下の表は、E・H・エリクソンの自我の発達を中心とした発達段階と発達課題の一部を示したものである。表の（2）と（3）に入る語句を語群①～④から選び、その適切な組み合わせをア～オから1つ選び、記号で答えなさい。

発達段階	発達課題
幼児期初期 → 自律性	対 恥・疑惑
遊戯期 →	(1)
学童期 →	(2)
青年期 →	(3)
前成人期 →	(4)
成人期 → 生殖性	対 停滯

① 同一性 対 同一性混乱

② 勤勉性 対 劣等感

③ 自主性 対 罪悪感

④ 親密 対 孤独

ア (2) ② (3) ③ イ (2) ② (3) ① ウ (2) ③ (3) ④
エ (2) ④ (3) ① オ (2) ④ (3) ③

(5) 次の文の（①）・（②）に当てはまる語句または人物名を答えなさい。

アメリカの神学者で行動分析学の創始者（①）は、自らの立場を徹底行動主義と称した。ボックスに入れられたネズミが、①探索行動 ②偶然レバーに触れる ③餌が出る

④餌を食べるという一連の行動を何度も繰り返すうちに「レバーを押す」という行動が強化された。このネズミへの条件付けを（②）と定義した。